

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.24〉

〈船木② 課題とキーマン〉

船木地区は1868〜1918年ごろに石炭で栄えたが、現在の人口はその半数以下。その理由には石炭産業の衰退に加え、鉄道が地区を迂回(うっかい)して開通したことも挙げられるという。住民たちは以前のようなにぎわいを取り戻そうと、祭りやイベントを通して魅力を発信している。



船木フェスタを楽しむ多くの人たち

「船木の木」中心に、にぎわい創出

地区は2045年にさらなる人口の半減、そして高齢化率52%と推計されている。この超高齢化社会に備え、「住民は互いに尊重し、安心安全で住み良い地域社会を築こう」という地区スローガンの下、重点課題に防災体制の強化、高齢者の見守り強化、子育て支援強化、船木の活性化の4点を掲げ、地区コミュニティ推進協議会(長谷川典彦会長)を中心に活動している。

昨年10月のイベントに1000人超

地区は2045年にさらなる人口の半減、そして高齢化率52%と推計されている。この超高齢化社会に備え、「住民は互いに尊重し、安心安全で住み良い地域社会を築こう」という地区スローガンの下、重点課題に防災体制の強化、高齢者の見守り強化、子育て支援強化、船木の活性化の4点を掲げ、地区コミュニティ推進協議会(長谷川典彦会長)を中心に活動している。

地区の団体や事業所、行政機関らで構成して動き始めた「船木の木」(藤村光昭会長)も、これからの地区を引っ張っていく存在になりそうだ。▽子育て世代が安心して暮らせる地域づくり▽移転後の楠庁舎跡地を含めた歴史的資源の活用▽景観や環境の整備と魅力ある環境づくり▽地域住民と訪れた人の交流促進▽協働の推進―の5点をポイントに「誰もが住みやすい活気のある船木地区」の創出を目指している。

昨年10月30日に行われた船木フェスタでは、学びの森くすのきと連携して宿場町の面影を活用し、1000人以上が訪れる成果を挙げた。空き家を活用したマルシェなども展開し、市内外から訪れた人に好評を得たという。今後も「船木の木」主体の取り組みを検討しており、10月は岡崎八幡宮の秋季大祭でのマルシェ、11月は瑞松庵で竹灯籠ライトアップを計画している。

「古き良き船木の魅力を多くの人に知ってもらい、地域の人と協力してにぎわいの場を設けたい。船木地区が楽しいまちになることを心から願っている」と藤村会長(47)。長谷川会長ら地域住民は「1000人以上を集めるイベントは昔の活気を思わせる。これからの船木を担ってほしい」と期待を寄せる。